



平成28年度熊本地震災害支援報告

NPO法人五ヶ瀬自然学校  
宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字鞍岡2840

TEL/FAX : 0982-73-6366

# はじめに 熊本地震で私が感じた事。それは自分を差し置いて、世のため、人のために、不眠不休で働いた人たちがいた事。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」のデクノボウが沢山いた事。それは日本人が取り戻さなければいけない事。

五ヶ瀬自然学校は熊本に隣接しながらも被害が少なく、地震発生直後から安全を確保しながら支援活動を始めることが出来ました。  
全国の方から沢山の支援物資や支援金、人的支援を得ることが出来ました。ご協力いただきました皆様、心より感謝申しあげます。

目次

**支援の沿革と展開2**

**フェーズごとの支援報告**

フェーズ０2

フェーズ１4

フェーズ２5

フェーズ３8

フェーズ４10

**統計資料10**

**会計報告11**

# 支援の沿革と展開

五ヶ瀬自然学校は、2016年4月14日と16日に発生した熊本地震の支援を行うため、ＲＱ災害教育センターの支援により設立されたＲＱ九州五ヶ瀬ボランティアセンターの運営を担い、同時に理事長杉田英治がＲＱ九州副代表を務めた。

ＲＱ九州五ヶ瀬ボランティアセンターは五ヶ瀬自然学校を中心にＮＰＯ法人一滴の会、服掛松キャンプ場、五ヶ瀬エネルギー研究所といった五ヶ瀬周辺の団体や個人での協力者によって構成され、地震直後からの物資支援、全国から一般ボランティアを募集しての人的支援を行った。

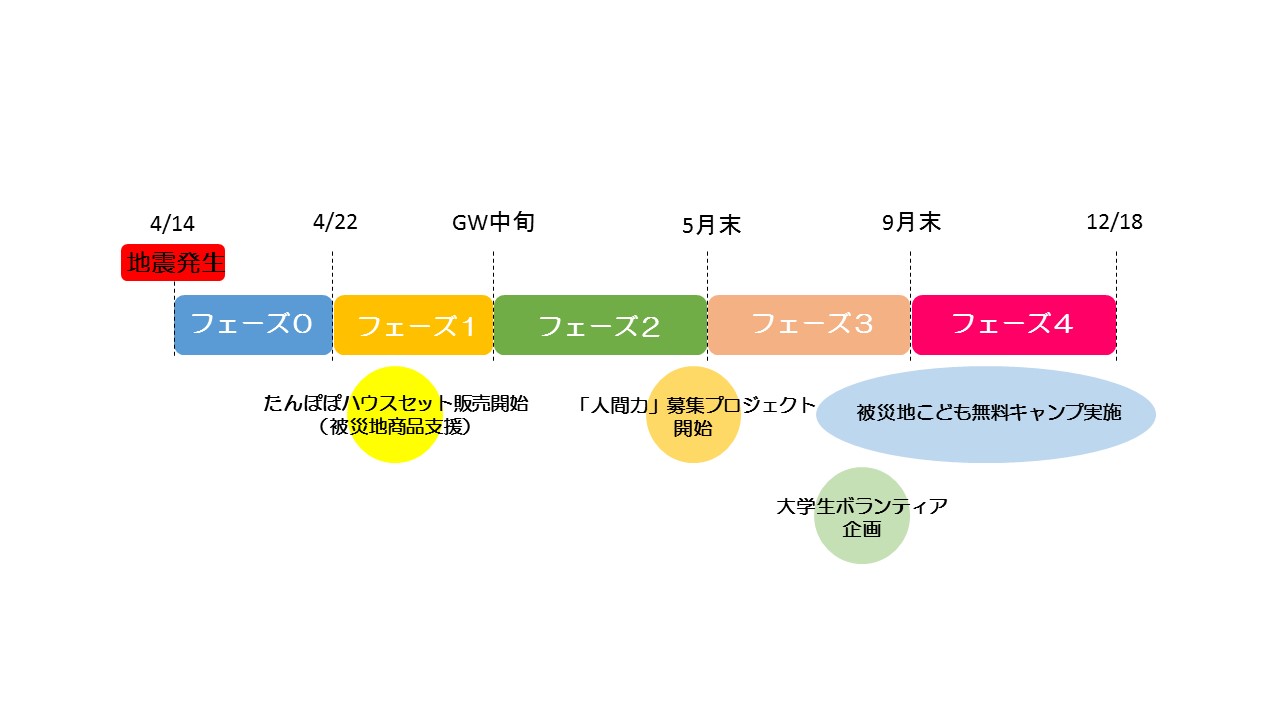
また、物資支援や人的支援を行うなかで見えてきた、多様な被災地での課題がたくさんあり、それらを解決するために五ヶ瀬自然学校が今まで培った経験、ノウハウを活かして独自に「被災地商品販路開拓」「人間力募集プロジェクト」「被災地こども無料キャンプ」「大学生ボランティア企画」といった支援活動を行った。

以下に地震発生から支援体制構築までの動きと2016年12月18日まで続けていた平成28年度被災地支援におけるおおまかな支援段階と発展を示す。

# フェーズ０

|  |  |
| --- | --- |
| 4/14 | 21時26分熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生。 |
| 4/15 | 五ヶ瀬自然学校では前日の地震を踏まえて翌日16日のイベント中止を決定。 |
| 4/16 | 1時25分熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生。 日中、ＳＮＳで物資不足、孤立、交通情報などの情報が錯綜し始める。 |
| 4/17 | 五ヶ瀬自然学校理事長杉田と五ヶ瀬自然農園長崎で南阿蘇村長陽中学校、南阿蘇西小学校へ炊き出しへ。長陽中学校にはすでに自衛隊が到着しており、炊き出しを始めていたので、南阿蘇西小学校で持参した羽釜でみそ汁とごはんを提供。１ｔタンクも提供し避難環境を整え、近辺の被害状況などの情報収集を行った。 |
| 4/18 | 朝電話にてRQ災害教育センター理事長佐々木より杉田英治（NPO法人五ヶ瀬自然学校）へRQ九州五ヶ瀬ボランティアセンター開設、代表就任の依頼があり快諾。協力団体、自治体、地域の方々への連絡を行い、人員集め、場所確保などの体制づくりを進める。夜にホームページ（仮）が開設。同時に支援物資、支援金の募集開始。 |
| 4/19 | 服掛松キャンプ場加藤さん、NPO法人一滴の会川上さん、高千穂観光ガイド高藤さんなどで近隣地域や知人から提供された無洗米、根菜、調味料、カップラーメン、薪などの支援物資を車に積め、南阿蘇村白水水源駅、中松一区、南阿蘇西小学校、長陽村庁舎、栃木公民館、久木野庁舎や個人経営のカフェなどをまわり情報交換、連絡先交換を行う。南阿蘇サテライト支援物資拠点として白川水源駅の使用許可をもらい、カフェ経営者の伊藤さんとの協力体制を整える。拠点の隣町の山都町役場にも訪問し町施設（旧蘇陽体育館）の使用許可を頂くと同時に山都町内の被害状況を得る。 |
| 4/20 | 水を入れたポリタンク、菓子パン、野菜ジュースなどをトラックに積め込み、阿蘇市周辺へ情報収集へ向かう。門前町商店街、阿蘇デザインセンター、内牧温泉、下野地区公民館、ペンションなどに立ち寄り情報収集、連絡先交換を行う。高千穂町建設業組合、商工会連合会の支援物資を積んだトラックが南阿蘇白川水源駅、久木野のカフェ、栃木公民館へ物資を搬送。 |
| 4/21 | 支援物資がＧドームに集まりだす。五ヶ瀬エネルギー研究所石井さんをはじめ地域の方を中心に支援物資の仕分け、整理を行う。五ヶ瀬町役場吉村さん、杉田を中心に総務体制を構築。地震当初から熊本内へ動いていた高藤さん、川上さん、加藤さん、浜山さんなどで支援物資運搬を行う。大まかな全体の体制ができあがる。 |
| 4/22 | 16時から信頼できるつながりのある団体、個人に呼び掛け、正式なRQ九州五ヶ瀬ボランティアセンター発足ミーティングをＧドームで行う。夜ごろRQ災害教育センター代表佐々木、事務局長八木が五ヶ瀬に到着。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| フェーズ０ | フェーズ１ | フェーズ２ | フェーズ３ | フェーズ４ |
| 4/14~4/22 | 4/22~GW中旬 | GW中旬~5月末 | 5月末~9月末 | 9月末~12/18 |
| 体制づくり、組織構築、情報収集 | 物資支援、情報収集 | 物資＆人的支援 | 人的支援 | 人的支援 |
| 初動体制構築期 | 緊急的物資支援期 | 生活再建人的支援期 | ボランティア減少＆情報発信期 | レギュラーボランティア農業支援期 |



# フェーズ１

4/18夜にＲＱ災害教育センターの協力により、ＲＱ九州のホームページが出来上がり、そのなかで支援金と支援物資の募集を開始。数日前にに協力を要請した五ヶ瀬町から五ヶ瀬ドーム（以後Ｇドーム）の使用許可を得ていたため支援物資の送り先はＧドームとし、そこをフェーズ１の活動拠点とした。

●支援物資送付元

●支援物資の拠点内管理  
以下の分類でＧドーム内でおおまかに置く場所を分別し、分別する時に保管用の箱の側面すべてに内容物が分かるよう記入した。また運送待機エリアも設置し運搬先別でブースをつくり運送前に何をどれだけ持っていくか準備をしやすく出来るようにした。  
○食料品（野菜、お菓子、レトルト系、缶詰系、離乳食、調味料、米、水、飲み物）  
○紙コップ・紙皿  
○生理用品  
○オムツ（幼児用、高齢者用、サイズ別）  
○生活用品（ウェットティッシュ、簡易トイレ、ハブラシ、タオルなど）  
○野外生活用品（電池、懐中電灯、ヘッドライト、テント、寝袋、銀マット）  
○資材（ブルーシート、ガムテープ、ロープ）  
○医療品（ガーゼ、アルコール消毒液、サプリメント）  
○その他（こどものおもちゃ、衣類など）

●情報収集、ニーズのマッチング

●運搬方法  
地震直後から個人で物資運搬していた方、熊本の地理に詳しい方、自己完結ができる（不足の事態が起きた時に臨機応変に対応し、自分の力で解決することができる）方がそれぞれの自家用車や自然学校ワゴン車、五ヶ瀬太鼓保存会マイクロバスを使用し、物資を運搬した。Googlemapのナビ昨日や車載のナビを使ったり、道に詳しいものが同乗したりして目的地まで向かった。道中、運搬先やボランティアセンターとの連絡が密にとれるようできるだけ2人１組で運搬した。

●ボランティアセンター（Ｇドーム内）でのボランティア  
大量の支援物資が届くので、それの記録、分別、整理に多くの人手が割かれた。五ヶ瀬エネルギー研究所石井さんを中心に五ヶ瀬自然学校スタッフ、五ヶ瀬町内の協力者、五ヶ瀬中等教育学校のボランティアや知り合いつてで全国から集まったボランティアで支援物資の管理を行った。

●支援物資統計  
運送会社の概算では40ｔ分の物資がＧドームに集まった。  
○食料品（レトルト類、レトルト類、缶詰、離乳食など）　　　　　２５６０箱  
○お米　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　２８７２ｋｇ  
○野菜類　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 ５７箱  
○飲料（水、お茶、野菜ジュースなど）　 　　 ８７７箱  
○お菓子類　 　　１５６箱  
○調理小物類（ガスコンロ、紙コップ、紙皿など）　 　　　 ６１箱  
○生活用品（ウェットティッシュ、トイレットペーパーなど）　 　１０２４箱  
○衣類　 　　　 ４１箱  
○医療品（ガーゼ、消毒液、サプリメントなど）　 　　 ４３箱  
○子どものおもちゃなど　 　　　 １２箱  
○資材（ブルーシート、ガムテープ、ロープなど）　　　　　　 　　　７２箱

# 被災地商品販路開拓支援（日本財団助成事業）

地震発生直後の支援物資を運搬している時に知り合った西原村の障害者自立支援施設「NPO法人たんぽぽハウス」では障害者の作業支援として農作業や食品加工を行い様々な食料品を製造していました。それらは西原村の道の駅「萌の里」で販売されていましたが、今回の地震で被災した「萌の里」は営業が困難になり、たんぽぽハウスの商品は売り場を失ってしまいました。たんぽぽハウス自体も被災し建物内はもので散乱しているなか、周辺の被災した人々のために炊き出しを行っていました。

支援物資を届けるなかにできた信頼関係から「たんぽぽハウスの商品をどうにかしたい！」と要望があり、五ヶ瀬自然学校ではもともとネットを使っての特産品販売を行っていましたので、たんぽぽハウスの商品で寄付金を含めたたんぽぽハウス応援セットを作り、４月末に代行販売を開始しました。たんぽぽハウス応援セットは、商品のクオリティーとたんぽぽハウスの支援活動により様々なところで反響があり、「たんぽぽハウスの商品を販売して、応援したい」という声が多く寄せられ、たんぽぽハウス商品の販路確保をすることになりました。

まず、知り合い筋から西鉄福岡駅に新設される復興支援ショップでたんぽぽハウスの商品を販売したいと連絡があり、商品を発送しました。次に、５月１４日に八代市で開催されたマルシェでの屋外販売。次に、福島県のとある方より「災害や風評被害で商品販売や観光がうまくまわらない気持ちがわかる」と連絡があり、福島市じょも―ぴあ宮畑で5月29日開催された縄文鍋まつりのフリーマーケットコーナーにてたんぽぽハウスの商品や地震後観光業が衰退し、著しく売上がおちた被災地の商品を五ヶ瀬自然学校がピックアップし販売していただきました。ほとんど完売し、その売上は製造元に全額寄付されました。

宮崎市でも熊本のものを買って支援したいという動きがあり、新たに発足した「kau kau ぐっくま -買う買う good 熊本-」さんに商品の流通を行い、宮崎市で開催されるイベント、ライブなどでたんぽぽハウス商品を販売してもらっています。９月１０日に福岡県田川市で行われる、「愛と思いやりのまち・筑豊〜飲酒運転0ゼロと熊本地震復興を願って〜たがたんクラブ３周年記念チャリティー現代国際巨匠絵画展」にて商品を販売したいと連絡があり、商品を発送しました。

# フェーズ２

生活を成り立たせながら生活環境を整えていく段階。避難所が統廃合していき避難者の数が減って来ているなか物流も回復してきたので、商店の営業妨害になり、被災者の自立のことも考えて支援物資の配給を徐々に減らしていった。被災者自身は家の再建、修理などでとにかくお金がかかるので支援物資でもらえるものはもらいたいという考えが多く聞かれた。

GWあけから各自治体社協や民間団体のボランティアセンターが開設された。ＲＱ九州でも一般のボランティア募集がＧＷからはじまり、全国から多くのボランティアが集まった。五ヶ瀬ＶＣでは避難生活や、家の片付けなどで手つかずになっていた農業の遅れを取り戻したいという農家の方々からのボランティア依頼が多く寄せられた。農業系の依頼が多かったのには社協ボラセンが農作業のボランティアは個人の利益につながるということで依頼を断っていたのも一因とされる。

ＧＷ中は非常にボランティア参加希望者も多く、無料宿泊場所付きという条件が他の団体にはなく、それが理由で五ヶ瀬ＶＣを選んだという声が多かった。また、社協のボランティアセンターは県内からの参加のみ可能など、条件も厳し目であった。

五ヶ瀬ボランティアセンターではＧＷ中にＧドームから旧蘇陽中学校体育館に拠点を移し、五ヶ瀬自然学校が管理をする「五ヶ瀬の里キャンプ村」を一般ボランティアの宿泊場所とした。宿泊は無料で、公のホームページ上では食事は無料としていたが、まかないの募金箱をつくり、そこから食材を購入し、ボランティア全員で食事をとっていた。結果的にボランティアの金銭的な負担は交通費のみとなった。

**ＲＱ九州ボランティア参加条件**・原則として自立のスタンスをもち、自己責任で行動できること  
・心身ともに健康であること  
・同じ意志をもって行動できること  
・被災者に最大限の配慮ができること  
・「RQ九州版・災害ボランティアの心得」を読み、賛同できること  
・ボランティア活動保険（天災タイプ）に加入済みのこと。  
・写真や映像・録音媒体に記録され、公開されることをあらかじめ承諾できること

#### ボランティアのタイムスケジュール 07:00 　朝食 08:00 　朝ミーティング 08:30 　活動開始 12:00 　昼食 16:00 　作業終了、休息、食事 18:30 　夜ミーティング・チーム編成 19:00 　ミーティング終了、休息、食事

# 人間力募集プロジェクトの始動

ＧＷ中こそボランティアの数は多かったが、次第に減っていった。背景にあるのは、熊本地震の報道がメディアで全くなされなくなり、被災地の状況、支援団体の情報が普通の人には手に入らなくなってしまったこと。実際、被災地では困っている人たちはたくさんいて、生活再建、熊本復興に向けて今から多くの力が必要なのに周囲からの関心が薄れてしまっていることに危機感を感じ、「被災地の現状を知らせること」「被災地で多くの人ががんばっていること」「誰にでも被災地のためにできることがあること」を発信するために五ヶ瀬自然学校で人間力復興プロジェクトを立ち上げました。

●被災地の実情を知らせる動画を３本  
●地震当初から今に至るまでの被災地でのストーリー  
●熊本地震支援に関わった人々の気持ちのコラム  
●身近でできる被災地支援方法の提示（被災地販売や支援団体の紹介）

といったコンテンツを含んだホームページを作成し、ホームページのＱＲコードを載せたポスターを作成しました。

# フェーズ３

仮設住宅の入居やインフラ、道路の回復が進む一方、全国メディアでの熊本地震の露出が少なくなり、ボランティアが集まらない。６月の梅雨の時期には熊本に豪雨が襲い、地震で緩んだ地盤が緩み、土砂崩れが多発した。山都町山間部では多数の集落が孤立状況になった。豪雨後は畑に侵入した流木、水路の土砂かきのボランティア依頼が南阿蘇村から多くあった。また、雨の影響でボランティア活動ができるかできないかの判断が非常に難しい時期でもあった。

後述する「大学生ボランティア企画」を８月末に開始したので、9月のボランティア数は非常に増えた。

# 被災地無料こどもキャンプ

被災者の生活環境はかなり整ってきたとはいえ、自宅の片付け、仕事の遅れなどで子持ち家族はこどもに構う時間が極端に少なくなっている上に、被災地ではこどもが安全安心に遊べる場所が極めて少なくなっているように思えた。ただでさえ避難生活で通常の生活では感じなかったストレスを受けている状態でもあったので、「被災地のこどもたちに安全な五ヶ瀬で思いっきり遊んでもらいたい」という思いをこめて全12回の無料こどもキャンプを実施しました。対象は南阿蘇村と西原村の小学生で各回応募者の中から抽選で８名を選びました。送迎は五ヶ瀬自然学校が指定の集合場所から五ヶ瀬まで行いました。以下の表に各回の参加人数一覧を示す。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 日程 | タイトル | 南阿蘇 | 西原 | 計 |
| 1 | 8.1-2 | ムシムシキャンプ | 8 | 7 | 15 |
| 2 | 8.4-5 | モグモグキャンプ | 7 | 5 | 12 |
| 3 | 8.6-7 | 集落探検キャンプ＠桑野内 | 5 | 12 | 17 |
| 4 | 8.8-9 | ムシムシキャンプ | 6 | 6 | 12 |
| 5 | 8.10-11 | 集落探検キャンプ＠笠部 | 1 | 7 | 8 |
| 6 | 8.12-13 | 集落探検キャンプ＠土生 | 7 | 3 | 10 |
| 7 | 8.18-20 | 川遊びキャンプ | 8 | 7 | 15 |
| 8 | 10.8-9 | 化石発掘キャンプ | 8 | 7 | 15 |
| 9 | 10.22-23 | カヌー＆登山キャンプ | 5 | 6 | 11 |
| 10 | 10.29-30 | カヌー＆登山キャンプ | 7 | 6 | 13 |
| 11 | 11.26-27 | 太鼓＆相撲キャンプ | 5 | 0 | 5 |
| 12 | 12.26-28 | スキーキャンプ | 8 | 2 | 10 |
|  |  | 計 | 75 | 68 | **143** |

# 大学生ボランティア企画

９月以降のボランティア数を確保するために、大学生が夏休みに入る９月に学生ボランティア企画として、大学生がニーズ調査からアポイント、ボランティア実行といったプロセスを経験できるプログラムをつくり、九州内の大学にあるボランティアサークル、ボランティア支援を行っている大学の学生課などにチラシを郵送もしくは、メールにて情報を拡散したところ期間中に計33名の学生がボランティアに参加してくれた。参加大学名は鹿児島大学、南山大学、京都大学、京都工芸繊維大学、宮崎公立大学、首都大学東京、愛知大学、龍谷大学、宮崎県立看護大学、福岡女学院看護大学など。企画の宣伝を直接したところ以外からも、口コミやＳＮＳで拡まり、九州外からもの参加も多くあった。２週間近く滞在してくれた参加者や、２回きてくれた参加者もあり、学生からの関心も強く、期間中学生が多いにボランティア活動で活躍してくれた。参加者の学生には、代表の杉田からの災害支援に関する心構えや地震当初の事例を踏まえた被災地の実情などのレクチャーと滞在中に思ったことを書く感想文を義務づけた。

学生感想文（京都大学１年黒田聖奈）

熊本の状態はこちらに来る前の想像と大きく違いました。杉田さんがおっしゃるように熊本に関する情報は日がたつにつれ急速に減り、私が今回来る時も「そんなに必要じゃないかもしれないけどとりあえず行ってみよう」程度の気持ちでした。実際に来てみると震災直後のような状態の場所が多くあったり、物資の供給がアンバランスであったり、生活にそくさなければわからないニーズがあったりと、大阪にいては知らなかったことばかりでした。ボランティアについても、助けを必要とする人を順番に助けていくという感じでイメージしていたのと少し違いました。団体と団体の太い繋がりのようなものをイメージしていた気がします。しかし、こちらに来て個人と個人の網目状の繋がりのようなものだなと思いました。小さな力であってもできることを毎日少しずつやっていく姿がありました。熊本の人は今できることを一生懸命やっていました。私も今自分にできることをやっていきます。（終）

感想文から分かるように、学生たちは日常では経験できない体験をして、ボランティアを通して様々な学びをして帰って行きました。被災地の復旧・復興が前提のボランティア活動ですが、それに加えて若者の教育という意義ももった企画となりました。

# フェーズ４

10月になり、ボランティアが激減した時期。参加するボランティアは周辺地域在住で当初より支援活動に関わっていた人やボランティアセンターに住み込んでいる人、あとはリピーターの人と学校などの団体での参加のみになり、新規での参加がほとんどなくなった。他支援団体もボランティアセンターを閉鎖したり撤退するところも見受けられてきた。  
ニーズとしては農業の収穫時期になったので作物の収穫、稲刈りや、冬支度に向けた草刈りが大多数をしめた。

# 統計資料

ボランティア人数と活動日数

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
| 日数 | 16 | 31 | 30 | 31 | 27 | 30 | 31 | 30 | 18 | 244 |
| 人数 | 210 | 303 | 218 | 156 | 144 | 264 | 147 | 237 | 83 | 1,752 |

ニーズ内訳

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 5/26～ | **ニーズ数** | 完了 | 取りつぎ キャンセル | 益城町 | 西原村 | 南阿蘇村 | 山都町 | 南区 | 阿蘇市 | 西区 | 中央区 | その他 |
| 5月 | **8** | 8 | 0 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 6月 | **38** | 37 | 1 | 4 | 13 | 13 | 3 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 7月 | **32** | 27 | 5 | 7 | 13 | 10 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 8月 | **27** | 22 | 5 | 5 | 11 | 10 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9月 | **14** | 13 | 1 | 2 | 5 | 4 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10月 | **15** | 14 | 1 | 3 | 2 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11月 | **6** | 6 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 12月 | **4** | 4 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | **144** | 131 | 13 | 23 | 50 | 54 | 4 | 8 | 2 | 1 | 1 | 1 |

ニーズ作業分類

|  |  |
| --- | --- |
| **作業内容** | **ニーズ数** |
| 草刈り、草抜き | 67 |
| 個人宅、倉庫などの片付け | 17 |
| 農業補助（収穫、種まき、苗植えなど） | 15 |
| 倒木流木の撤去、泥水、土砂のかきだし | 11 |
| ブルーシート張り（屋根上、崖、壁） | 10 |
| 木の剪定、伐倒 | 10 |
| ビニールハウス解体、組み立て、管理手伝い | 9 |
| ブロック塀、廃棄物の解体、釘ぬき | 7 |
| ガレキ撤去 | 4 |
| 支援物資運搬 | 3 |
| その他 | 2 |
| ※複数の作業を同一の依頼主が依頼する場合があるので総ニーズ数と一致しない | |

# 会計報告